

大学と地域で創る生涯学習活動の研究

－後志地方におけるワークショップによる地域共同活動の試み（2）－

A Study on Lifelong Learning Activities

Jointly Organized by a University and a Community

－A Case Study of Regional Collaboration through Workshops in the Shiribeshi District（2）－

高岡 朋子 菊地 達夫 酒井 宏三 藤原 等他*
TAKAOKA Tomoko KIKUCHI Tathuo SAKAI Khozou FUJIWARA Hitoshi et al.

1. はじめに

道では平成17年「第2次生涯学習推進基本構想」が策定され、「道民カレッジ」連携講座を中核にすえて実施し、平成17年2月末までに466講座¹⁾を行っているが、講座の開催地域をみれば、札幌を中心とする石狩支庁管内に集中しており、地域格差はおおきい。また各自治体における社会教育計画（生涯学習計画）の策定も、財政難、市町村合併、担当人員の削減等によって十分とはいえない状況にある。生涯学習分野は多岐にわたるが、特定の分野に集中しているような自治体もみられる。一方各種大学は多くの分野にわたって生涯学習講座を展開し一定の成果をあげているが、その多くは、大学校舎、サテライト校舎などといった限られた場所で開催され、地域に直接出向き、地域施設で行うような試みは少ない。

こうした状況をふまえ、浅井学園生涯学習研究所では、17年度、後志支庁の倶知安町を主な研究対象地域とし、大学と地域で共に創る生涯学習活動の研究を試みた。後志地区は先の「道民カレッジ」の実施数は少なく、また「ミュージアムロード」という他の地域にはみられない特色のある美術館・文化施設が集積されている。研究所ではこれらの文化・生涯学習施設を再活性化させ、新しい生涯学習計画を実施することを考え、倶知安町に地域活動創造支援事業を展開することにした。

具体的には、芸術、スポーツ、労働問題、教育保育などといったワークショップの実践を通して、実施者、計画運営者、受講者の反応についてアンケート調査を行い、その結果、大学と

*本研究は表記の4名の他、次に掲げるメンバーによる共同研究である。中村康子、本間美幸、佐藤至英、佐々木邦子、森一生、阿部典英、末岡一伯、岡元真理子、野崎嘉男、林亨、村井俊博、北村優明、沓沢隆、中出佳操、千葉圭説、田口智子、すべて浅井学園大学生涯学習研究所研究員・所員である。

地域で創る生涯学習活動が調査地域にどのような効果をもたらすのかを明らかにすることを目的にした。

本稿では、生涯学習についての一般的な解釈とその必要性、また教育と学習との違い、ワークショップについての記述を試み、ワークショップ参加者にアンケート調査を行った結果を報告する。

2. 生涯学習とは

1) 生涯学習の系譜

「生涯学習」の概念が使用されるようになったのは、フランス人のラングランが学習は生涯つづくものというという考え方を提唱したことに始まる。Lifelong educationと訳され、日本語では「生涯教育」という言葉が用いられた。¹⁾日本では生涯教育に相当する用語として「社会教育」という語が主流であった。1949年に制定された「社会教育法」は幾度も改正を経ながら、現在でも有効な法律である。この答申は社会を「激しく変化している」と捉え、それに対処するために、また個性や能力を最大限に啓発するために、「人々はあらゆる機会を利用してたえず学習する必要がある」ことを前提としている。次々に新しい知識や技術が出現するために生涯、学習しなくてはならない。すなわち「生涯教育」という観点にたった教育の必要性である。教育の内容は、「少年から老人まで」を対象として、「知的な面から体育・文化活動まで」と幅広くとらえ、レベルも「日常的基礎的なものからより高度なものまで」、学習方法は「集合学習」「個人学習」を含むものと考えを明記している。

1981年に中央教育審議会が出した答申は「生涯教育について」と題がつけられ、「生涯教育」は社会教育、学校教育を含めて、教育全体の政策の中心理念になった。1987年内閣総理大臣の諮問に応じた臨時教育審議会が最終答申を出す。教育制度の「生涯学習体系」への移行が唱えられ、この答申では2つの大きな特徴がある。第1は「生涯学習」という語が用いられ、これは視点が教育を与える側ではなく、学習をする側に移っていることを意味している。第2は文部省や教育関係機関のみでなく他の省庁や企業なども含め、人の採用に際しては学校以外の場での学習成果も評価すること、就労後も学習に便宜を図ることなどを求めている点である。これは「生涯学習」の理念が教育界のみではなく、産業界も含めて社会全体を覆うようになったことを意味している。

この後、1990年にはいわゆる「生涯学習振興法」が新しく制定された。これは文部科学省のみならず、経済産業省なども関わっている。生涯学習振興法では、生涯学習とは何かという定義をしていないが、これは定義をすることにより、国民の自発的意思によってさまざまに展開されるべき学習を制約してしまうからであろう。²⁾

2) 学習と教育³⁾

人は、一定の社会的・文化的環境のなかで生活をする。そのために環境の要求する一定の文化的事象を習得しなければならない。社会集団での行動のルールや、コミュニケーションのた

めの言語、生活したり分業の責任を果すために要求される知識や技術、善悪の価値判断など、私達は学習によって身につける。低度なものは生活の中で、自然に学習できるが、高度なものは自然のうちに学習することは難しく、意識的に努力をする必要がある。現代の社会では、教育を目的とする「学校」という制度を生じさせるまでに発達した社会である。しかし教育は学校のみで行われるものではない。家庭におけるしつけ、会社における新入社員の指導・助言も教育である。社会教育法では、社会教育を「学校の教育課程として行われる教育活動をのぞき、主として青少年および成人に対して行われる組織的な教育活動」と定義している。すなわち学校で行われる正規の教育以外の組織的な教育活動はすべて社会教育と一括されている。

学習には「教育による学習」と「教育によらない学習」が存在する。人が人生において行う学習は、「教育による学習」より「教育によらない学習」のほうが、量的にははるかに多い。

教育は学校教育、社会教育、家庭教育、そのほかにも企業内教育とか個人による教育として塾や家庭教師などもあるが、そのなかでも「教育によらない学習」は非常に多くある。学校教育のなかでも教育課程以外に学習されていることとして時間の管理のしかたとか、同輩との付き合い方などがそうである。会社においても地位があがればそれに付随した役割をこなすために学習をしなければならない。つまり学習は生涯学習なのである。

3) 生涯学習の必要性⁴⁾

なぜ今「生涯学習」なのであるか。それは学校教育と関係があるのではないか。学校教育が発達した現代では「学習する」よりも、いかに「教えるか」に関心が集中し、教育は微に入り、細に入り、教師が指示を出すようになった。結果、それ以外の自由裁量の余地が認められなくなっている。さらに社会の動きが速く、過去の経験から得た価値観から、変動をつづける社会に生きようとする人々には適合しなくなり、新たな学習をすることが余儀なくされている。従って「生涯学習」が必要になるのである。ITを例にとると、2002年にはほとんどすべての公立学校に、インターネットにつながれたコンピューターが入った。これからの生徒はインターネットにつながれたコンピューターを知り、学ぶ機会を持っている。しかしそれ以前に学校教育をうけた人はそのようなことを学習していない。現代ではインターネットにつながれたコンピューターを駆使できない人や会社は、情報についてのハンディキャップを負っているともいえる。これらの社会変動に対処し、新たな社会秩序を作り出すために、人々は教育による学習、あるいは教育によらない学習であろうとも、生涯、学習しなければならないようになってきている。

3. 生涯学習活動形態

生涯学習の方法を大きく分類すると個人学習と集合学習に2分される。さらに個人学習は媒体によるものと施設利用によるものとに分けられる。媒体利用の中には、本や雑誌などの印刷媒体、カセットテープやビデオテープの録音・録画媒体、ラジオやテレビ、インターネットの通信媒体、そして通信教育がある。施設利用においては図書館や博物館、体育館などが上げ

られる。多くの場合完全な個人学習によって学習を深化させることはなく、読書の感想を語り合ったり、個人で調べたことを、報告しあったりする。

つぎに集合学習は集会学習と集団学習に分けられる。講演会や映画界に参加するなど、人びとが自由に集会や会合に参加する形態をさす。この場合集団の中にも人と交流することがないこともある。そこで人と人が交流する集団学習が大切になる。この場合参加者はある目的をもって学習集団を組織する。グループ、サークル、学級・講座などの名称が当てはまる。この集団学習の方法についていくつか上げる。⁵⁾

1) ラウンドテーブル・ディスカッション (円卓会議) * 円卓または四角い机でお互いが顔を合わせて討議する。人数はせいぜい15名以内のほうがよい。

バズ・セッション * 6-6 会議やブンブン会議とも呼ばれ、集団を6人(～8人)くらいの小集団に分け6分くらいであるテーマについて話し合いを行い、その司会が全体会に報告に行く。

フォーラム (座談会、談話会) * 3人以上の人が集まって、司会の進行のもとに行う話し合う会のこと。

① レクチャー・フォーラム 一定時間講師の講義を聴いた後、参加者同士で話し合い学習を進める。

② フィルム・フォーラム 映画やビデオなど観たあとに参加者同士の話し合い学習を進める。

③ パネル・フォーラム いくつかの異なった立場の人に壇上に上がって意見をのべて貰い、その人たち同士で討論をして貰う。その後フロアの人達を巻き込んだ意見交換や質疑応答を行う。

④ シンポジウム・フォーラム 壇上に数人の講師や専門家などが並び、それぞれの立場からあるテーマにそった意見を述べてもらう。参加者は講師との質疑応答や講師の意見をふまえた参加者同士の話し合いという形で議論に参加していく。

⑤ デイバート・フォーラム デイバートでは、ある論点をめぐって賛成派と反対派とに分かれて議論を行い、ジャッジが議論の勝敗を決定する。フォーラムの場合には、聴衆がジャッジに参加することもある。

これらの他にブレイン・ストーミング、ロールプレイング、インタビュー・ダイアログなどの方法が良く紹介されている。

つぎに今回、本研究所が行ったワークショップについて述べる。最近、従来の講義型・知識伝達型教育とはややちがった学びの形態として、参加型学習やワークショップがある。従来は代表者と質問者の固定化、あるいは話し合いそのものを目的とした学習方法などが多かった。ワークショップ型の学習方法は、参加者の経験を生涯学習への資源として、より積極的に活用していこうというものである。もともとワークショップという語は、作業場とか仕事場という意味であるが、転じて研究集会や体験・参加型学習会の意味を持つようになってきた。そ

が、本研究所では大学と地域が共同で生涯学習活動を創造していくという立場を取るべきであると考え、町教育委員会、美術館、学校、関係団体と連携をとりながら研究を進めていくこと

表1 ワークショップ参加者数

| | ワークショップテーマ | 実施月日 | 参加者数 |
|----|------------------------------|----------|------|
| 1 | 「ファミリーコーラスin倶知安」 | 11/12(土) | 28 |
| 2 | 親子で造る『オヨメサンとなかまたち』 | 11/12(土) | 25 |
| 3 | 「バドミントン・レディス競技講習会」 | 11/12(土) | 19 |
| 4 | 「吹奏楽を楽しもう」 | 11/13(日) | 82 |
| 5 | 「身近な材料で凧づくり」～羊蹄の風と楽しく遊ぼう～ | 11/13(日) | 32 |
| 6 | 発声講習会「美しい景色と空気に輝く歌声を求めて」 | 11/19(土) | 24 |
| 7 | こんな町だといいね「若者たちの考える健康なまちづくり」 | 中止 | — |
| 8 | 「MGが楽しい」～マネジメントゲームで経営の体験学習を～ | 11/19(土) | 4 |
| 9 | 「朗読劇ができるまで」 | 11/26.27 | 28 |
| 10 | 「これからの幼保の一元化」 | 11/26(土) | 17 |
| 11 | 「フリターニートの現状を知ろう」 | 12/11(日) | 14 |

になった。

内容としては当然のことながら、地域、対象を倶知安町に絞り、地域の文化的施設の活動、地域の歴史的人物の活動「後志地区倶知安町」のニーズに応じた内容であること、さらに対象者が、①大人向け②子供向け（小学生・中学生）③青少年向け（高校生向け）④親子向け、に区別されていることとして、研究所所員に「ワークショップ参加協力者」の募集をかけた。結果、造形分野、絵画分野、歌唱分野、管楽器分野、演劇分野、働く意欲づくり分野、経営学分野、スポーツ分野の9種類の分野から申し込みがあり、倶知安町社会教育課と相談をしながら10講座開催することになった。開催時期は10月から11月のおよそ1カ月間の土、日曜日を利用して実施された。

世代間や次代をつなぐという意味での「つなぐ」をキーワードに、親子で一緒に創作活動をするもの、郷土に生まれた作曲家である八洲秀章の曲を唄う歌声講座、地区内にある有島武雄記念館で行う朗読劇、親子で作り上げた凧を羊蹄山にかざす凧揚げ、現代的課題として幼稚園と保育の一元化講座と若者のニート問題を取り扱った講座、地元の高校生・中学の吹奏楽クラブと本学の芸術メディア音楽コースの学生とのコラボレーションによる演奏会等々が実施された。参加者人数の内訳を表1に示す。

1) 参加した人達 年代

倶知安町は後志地方の支庁所在地で、人口16,000人、世帯数6,900の町村である。人口の構成比は男女とも45歳から54歳が最も多く、老人人口といわれる65歳以上の人口が2,725人、14歳までの年少人口が2,421人と少子化傾向がみられる。⁷⁾

ワークショップに参加した人達の内訳を表2に示す。アンケートは一般用として作成したものであるため、中学生以下の子どもたちには実施しなかった。高校生が一番多かったのは倶知安高校の吹奏楽の生徒たちであり、つぎに多かったのは40代の人たちであった。

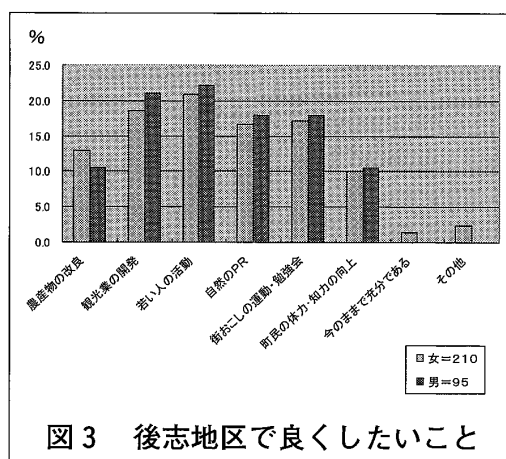
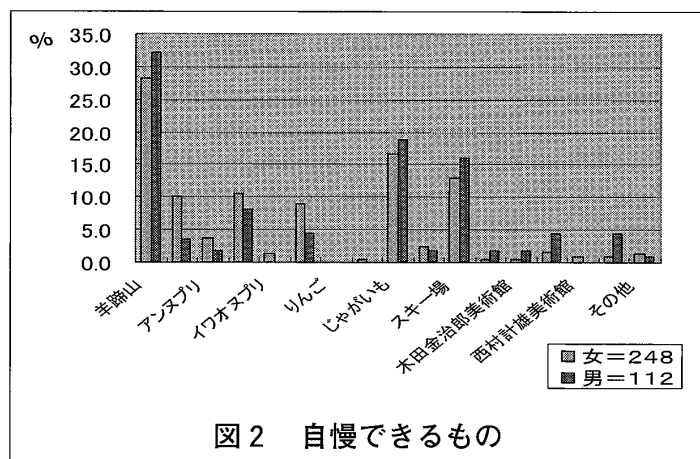


表2 参加者の年代

| 年代 | 女 N=84 | 男 N=35 |
|-------|--------|--------|
| 高校生 | 32 | 1 |
| 20代 | 6 | 5 |
| 30代 | 6 | 4 |
| 40代 | 16 | 11 |
| 50代 | 9 | 4 |
| 60代 | 11 | 1 |
| 70代以上 | 4 | 9 |

2) 倶知安町概要

ワークショップが実施された倶知安町は周囲を蝦夷富士といわれる羊蹄山に包まれ、豊かな自然に恵まれた風光明媚な土地である。主な農産物は北海道名産のじゃがいも、りんご、隣のニセコ町にはスキーヤーにとっては雪質の良さでは定評のあるニセコスキー場、ワイススキー場、アンヌプリスキー場などが連なり日本国内でも屈指のスキー名所がある。このような自然に恵まれた町民が自慢できるものを3つ上げて貰う。男女ともに羊蹄山（32.1%）が多く、つぎに農産物のじゃがいも（18.8%）、観光資源のスキー場（16.1%）をあげていた。スキー場はニセコ連峰であるワイスやアンヌプリの山を伐採し、スキー場として観光用に開拓し、冬には多くの客数を確保している。これに対し倶知安町民が誇る羊蹄山は自然そのものを温存する形で観光の手は入らない聖地としてその姿を留めている。ニセコから岩内にぬけるパノラマラインの途上にあるミュージアムロードと称される地元に密着した作家に縁のある美術館は、小川原脩記念美術館がわずかに選ばれているものの、多くの町民はそこに建物があるという感覚なのか、それほど大事に思っていないことがわかる。ミュージアムロードという他に類をみないこの文化施設に対して、地元の人の興味が薄いことが伺えた。

表3 後志地区でこどもたちに残したいもの

| | 男 | | | | | | 女 | | | | | |
|----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 順位 |
| 後志地区の自然 | 17 | 10 | 6 | 2 | 0 | 1位 | 62 | 13 | 8 | 2 | 0 | 1位 |
| ミュージアムロードの文化施設 | 1 | 1 | 4 | 3 | 18 | 5位 | 2 | 1 | 3 | 3 | 41 | 5位 |
| 農作物 | 6 | 10 | 8 | 6 | 1 | 2位 | 9 | 17 | 24 | 21 | 4 | 3位 |
| スキー、温泉などの観光資源 | 6 | 9 | 8 | 10 | 2 | 4位 | 3 | 25 | 22 | 18 | 3 | 4位 |
| 人とのつながり | 7 | 7 | 8 | 5 | 5 | 3位 | 8 | 22 | 20 | 9 | 5 | 2位 |

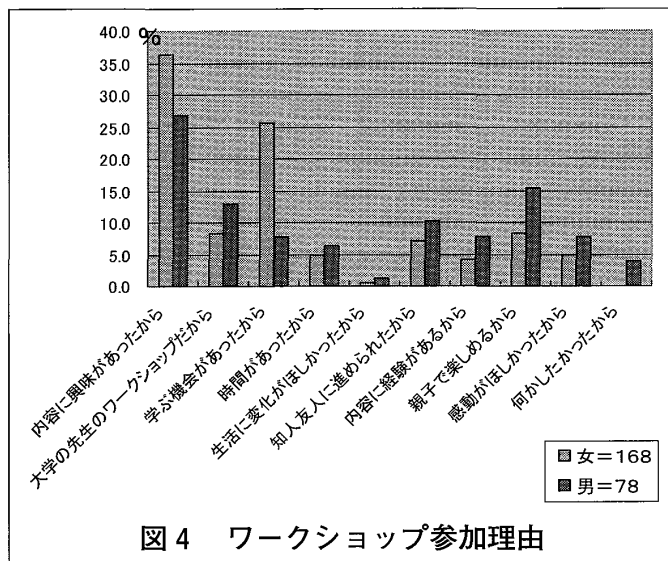


図4 ワークショップ参加理由

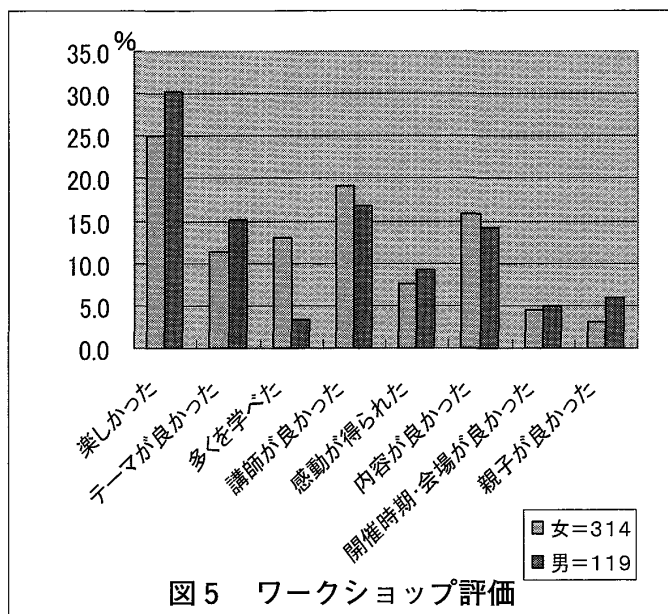


図5 ワークショップ評価

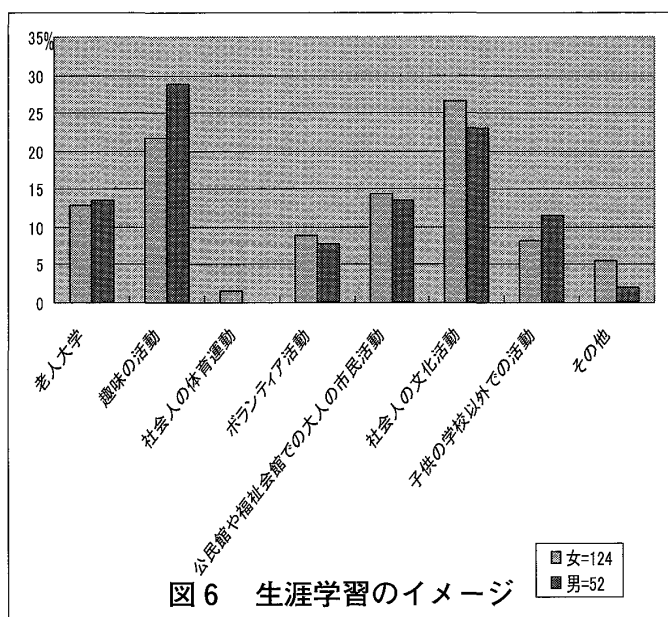


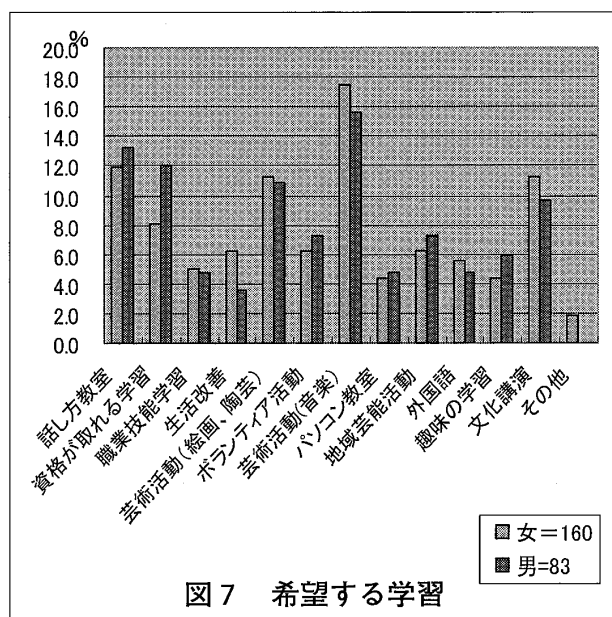
図6 生涯学習のイメージ

つぎに後志地区で次世代のこどもたちに残したいと思うものを選び順位をつけて貰う。結果を表3に示す。男女ともに1位に選ばれたのは「後志地区の自然」であった。蝦夷富士とよばれる羊蹄山とその周辺の景色は住民にとっても自慢できるものとして選ばれているところから、次世代のこどもたちにも自慢できるものとして残したいと考えていることが伺える。つぎに選ばれていた農作物と人とのつながりが、2位・3位と男女でちがいがあがるが、町民同士の人情を大事に考えていることがわかる。また町の将来の発展を考えた時に、スキーなどの観光施設やミュージアムロードの文化施設等が大事になると思われるが、アンケート質問項目「自慢できるもの」「こどもたちに残したいもの」共に選ばれることが少なかった。このことは町の成り立ちを物語っている。すなわち後志地区は屈指のスキー場をもち、北海道でもスキー観光集客数は道内一を誇っているのであるが、そのペンションの経営者やそれに類する観光業の経営者は地元の人ではなく、新天地を求めて入植した外部の人達である。そのため観光業は外部の人たちが興した産業と捉えられ、地元の人たちとは一線を画している。このことが、観光業やミュージアムロードに対しての関心の薄さに繋がっているのではないかと推測される。また今後、「後志地区で良くしたいこと」を応えてもらった結果を図3に示す。男女ともに一番高い値を示したのは「若い人の活動」、ついで「観光業の開発」、「街おこしの運動、勉強会」

と続く。上の表3「子どもたちに残したいと思っているもの」では観光資源やミュージアムロードの文化施設が低い結果であったが、後志地区の今後の活性化は、観光業の開発であり、それも若い人たちが運動をしていくことがベストであると考えていることがわかる。これは既存の観光資源ではなく、今後のオーストラリア資本が開発するであろう観光資源に対して、若い人たちが勉強会や活動をすることで後志地区の今後の発展につながると考えていることが推測できる。

3) 今回のワークショップ参加理由と評価

倶知安町の社会教育においても生涯学習活動は様々に展開されている。今回の大学からのワークショップに対してどのような理由で参加したのか聞いてみる。その結果を図4に示す。男女ともに第1の理由は「内容に興味があったから」であり、男性26.9%、女性36.3%、ついで「学ぶ機会があったから」女性25.6%、「親子で楽しめるから」男性15.4%と男女で差があった。本研究所が主催したワークショップは「つなぐ」というテーマを重視し、楽しく出来ること、わかりやすいことに視点を置いたことが、倶知安町の町民におおむね理解されていた。一般的に文化活動の講演会や音楽会等は女性のほうが出席が多いのが常であるが、今回のワークショップ参加数も女性のほうが多く、また「学ぶ機会があったから」の回答も多いことから、



倶知安町においても女性のほうがワークショップや公開講座等で学ぶことに積極的であることが分かる。

つぎに町民のワークショップ参加結果を図5にみると「楽しかった」が男性30.3%、女性25.2%と最も多く、ついで「講師がよかった」男性16.8%、女性19.1%、「内容がよかった」は男性14.3%、女性15.9%と良い評価を頂いた。倶知安町民にとっては、今まで大学の教員にふれる機会がなかったのが、今回のワークショップで接触する機会をもったことにより「講師がよかった」という評価につな

がったものと思われる。

4) 今後の生涯学習

平成17年5月の内閣総理府調査の『生涯学習に関する世論調査』⁸⁾から、今後『生涯学習をしてみたいと思う』は63.9%『してみたいと思わない』は26.6%、性別をみると『してみたいと思う』割合は女性が多く、『してみたいと思わない』と答えた割合は男性が高い。さらに生涯学習のイメージは『趣味・教養を高めること』『幼児期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと』『高齢期の生きがいを充実すること』『生活を楽しみ、心を豊かにする活動すること』が上位4項目であった。

倶知安町で生涯学習のイメージをきいたところ「趣味の活動」が男性28.8%で女性21.8%と一番多く、つぎに社会人の文化活動男性23.1%、女性26.6%、公民館や福社会館での大人の市民活動、男性13.5%、女性14.5%と倶知安町民は生涯学習のイメージを、社会人の文化活動で趣味的な学習をすると捉えていた。内閣府の生涯学習世論調査の回答⁸⁾では『高齢期の生きがいを充実すること』を選択した人が39.2%とやや多めであったが、倶知安町では老人大学を選択する人が、男性28.8%、女性21.8%と少なかった。これは倶知安町の人口比率が男女とも45歳から54歳が最も多く、また今回ワークショップに参加した人達の年齢層も40代が多かったことに由来すると考える。

また今後どのような学習を望むかについては、男性女性とも1位は芸術活動（音楽）、男性15.7%、女性17.5%、2位は話し方教室、男性13.3%、女性11.9%、3位は再び芸術活動（絵画、陶芸）で男性10.8%、女性11.3%であった。このように芸術活動が上位をしめたのは、倶知安町の特殊性を示すものと思われる。すなわち羊蹄をはじめとする自然の雄大さに加えて、建物そのものがアートになっている郷土ゆかりの作家の美術館が点在している環境が、人々にアートを身近に感じさせる効果があったものと考えられる。

つぎに最近の生涯学習講座では、近頃急速に進歩したインターネットやパソコン講座に人気が集まるが、倶知安町においては、必要性を感じていないのか、男女とも比率が低く、これも倶知安町の特徴として捉えることが出来る。又資格がとれる学習では男性が多く、文化講演等では女性がやや多く、男女による違いも見られた。

5. おわりに

今回、いかにして地域住民に生涯学習をするかを試案として実施したが、ワークショップを通して幾つかの課題が残った。倶知安町民にとっては、大学の教員の講義に参加できる機会は今までになかったことから、ワークショップの参加者には好評であったが、講座によっては人集めに苦慮したこともあった。このことから、課題の1つとして、魅力のあるワークショップすなわち人が集まるワークショップをするための方策として、地元根ざした人間関係の輪（組織的構築）をつくることの重要性を痛感した。

また今後の生涯学習として学びたいものが、音楽や芸術分野に多く表れていたが、それは建物がアートである郷土ゆかりの作家の美術館が点在している環境が、影響しているためと考えられる。

従って今後、2つ目の課題として後志地区で地域に根ざした生涯学習計画を考える場合には、この芸術性を求める町民の学習意欲を生かすこと、さらに3つ目として地元の人々が真に求める生涯学習は何であるのか、何を求めているのかなど地元のニーズを探った上でのワークショップの開催が重要なのではないかと考えられた。

以上

資料：ワークショップリーフレット

大学と地域が信頼と連携を強める 楽しい地域づくりがしたい。

「未来が広がる創造の場」としての新たな一歩を踏み出す浅井学園大学。
あなたの街へやってきました。

大学の強み 女性の社会的地位の向上を目指し、
女性に必要ない職業的スキルと幅広い教養を身に付けた
自立できる社会人の育成

大学の強み 愛と和と国際性

浅井学園大学はこんな大学です。

くっちゃん町内施設のご案内

くっちゃん児童館
倶知安の風土のなかで成長し、独自の個性をなした
画家小川原博の作品を中心に展示しております。

くっちゃん図書館
二セコと羊蹄山の自然、倶知安の歴史と暮らしを
紹介した地域に根ざした博物館。

くっちゃん公民館
絵本を通して親子、大人と子ども、子ども同士の
コミュニケーションの場として、開放的な雰囲気
のなかでさまざまな活動を行っております。

くっちゃん体育館
メインアリーナ、サブアリーナを有する後志代表
するスポーツの殿堂として、親しまれております。

くっちゃん文化センター
文化、教育、福祉の複合施設として、子どもから高
齢者まで幅広い年齢層が集い、学び楽しめており
ます。

お申込みは ☎0136-21-4141 (小川原博記念美術館) まで!!

お問い合わせは…

小川原博記念美術館

〒044-0006 北海道倶知安町北6条東7丁目

TEL 0136-21-4141 担当: 矢吹・高野

浅井学園大学生涯学習研究所

〒069-8511 北海道江別市文京台23番地

TEL 011-386-8011 担当: 高岡・菊地

わくわく ワークショップ in くっちゃん

くっちゃんに大学がやってくる?!

私たちといっしょに学んで みませんか? 各講座の担当講師13名。 どんな先生なのかな?

わくわくワークショップくっちゃんでは、
江別の浅井学園大学 生涯学習研究所から個性豊かで経験豊富な
講師の先生がやってきて様々なテーマでワークショップを開催します。
考えたり、体験したり、友好を広げたり!
さあ、私たちといっしょに学んでみませんか?

**親子でつくる
オヨメサンとなかまたち**

講師: 阿部 典英 Norihide ABE

担当: 造形(美術)

本の味とおもしろいよね。
どこか懐かしくて、小さい頃を思い出
すでしょうか? 多分は昔話の中に
あるオヨメサン、作ってみませんか?

**マネジメントゲームが
楽しい!!**

講師: 高澤 隆 Takashi Takasawa

担当: 企業・市場

楽しいイメージの「経営」をゲーム
で楽しく体験してみませんか?

吹奏楽を楽しもう

講師: 千崎 圭樹 Keisuke Chigaki

担当: 音楽(音楽・パ・ユ・フェ・ア)

皆さんの楽器をレベルアップさせ
技を磨きませんか?

**手紙の風と楽しくあそぼう
身近な材料でタコづくり**

講師: 野崎 隆男 Ryūō Nozaki

担当: 絵画

暖かむたる羊蹄山・二セコの
山々に触れ、タコを親子でつくり
ましょう!

**歌声講座
美しい音色と芯強い歌声を求めて**

講師: 純元 真穂子 Makoto Sumoto

担当: 音楽、声楽

人の声って素晴らしいこと知って
る? 全裸で歌唱する音楽家なんて
もあつて、楽しいものですよ!

**これからの幼稚園と保育所の
一元化を考える**

講師: 末岡 一伯 Kazunori Sukenaka

担当: 心身障害学

幼稚園・保育所のあり方を子どもの
心から見た視点から話し合っ
てみませんか?

**なつかしい懐
心に響く歌のつどい**

講師: 付井 俊博 Toshihiro Furui

担当: 生涯学習

「青春を!」八洲舞臺さんの歌を中心
に聞かせませんか?
俱知安の歌も作られたら素敵です
わ!

**手紙の風と楽しくあそぼう
身近な材料でタコづくり**

講師: 林 亨 Toru Hayashi

担当: 絵画、美術教育

お父さん、お母さんと力を合
わせてつくるね。
糸の強さに秋の空の高さを感じ
ましょう!

**これからの幼稚園と保育所の
一元化を考える**

講師: 菊地 達夫 Tatsuo Kikuchi

担当: 人文地理学、社会科教育

一元化って本当によいことなの?
子どもの視点で一緒に考え
てみませんか?

**フリーターやニートって
なんだろう?**

講師: 佐々木 邦子 Kazuko Sasaki

担当: 雇用関係、市場調査

イヤイヤ働く苦痛ってカッコいい
ですね。
でも、働くってむずかしいのかな
?一緒に意見をかわしましょう!

**若者のば
にんな街だといけ**

講師: 中込 佳典 Yoshinori Nakagoshi

担当: 基礎地理、地域開発

ゆっくり歩きながら自分の街を再
発見しませんか?
最高の目でほめよい街をつくりま
しょう!

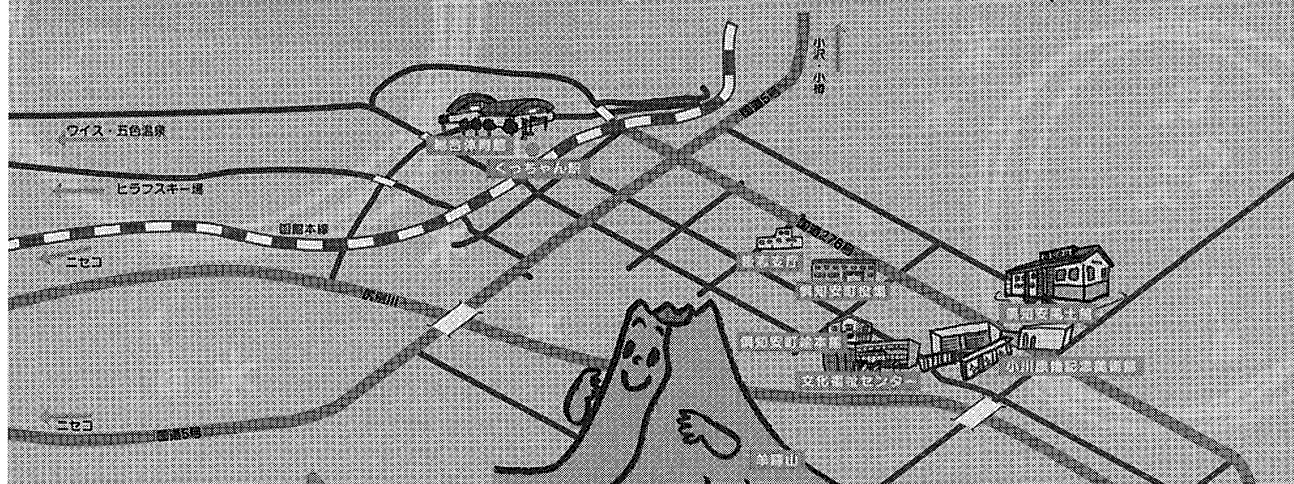
**高と子のバドミントン教室
レディスバドミントン**

講師: 北村 愛明 Atsuhiko Kitamura

担当: 体育方法

パートナーと心をあわせ楽しい
汗をかきませんか?
シャトルがむずかしいを喜んでき
ましょう!

羊蹄のまちに大学がやってくるよ!



おもしろい講座がいっぱい!!

あなたはどれに参加する?
11/12 土からスタート!

11/12
土

ファミリーコースの仲間
なつかしい唄
心に響く歌のつどい

高井学大生漢学研究所所員

村井 俊博

アコーディオンがある。
澄んだ秋空に響く合奏がある。
やまびこで先生の歌が、心なつかしい!

| 時間 | 場所 | 対象 |
|--------------|------------------|---------|
| 午前10時~12時 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 小学生~中学生 |
| 午後1時30分~4時 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 一般 |
| 夜の部: 午後7時~9時 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 一般 |

夜の部は、なつかしい唄と先生の歌が、心なつかしい!

11/12
土

親子でつくる
オヨメサンとなかまたち

高井学大生漢学研究所所員

阿部 典英

いろいろな形のオヨメサンが、
オヨメサンとなかまたちを繋ぎます。
自分の好きな色を塗ってね。

| 時間 | 場所 | 対象 |
|------------|------------------|----|
| 午前10時~12時 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 親子 |
| 午後1時30分~4時 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 親子 |

※50センチくらいの定規とえんぴつ、工作用ハサミ、カラーテープ、
色紙ハシヤーを持ってきてね。

11/12
土

母と子のバドミントン教室
レディスバドミントン

高井学大生漢学研究所所員

北村 優明

イギリスから帰国したバドミントン
たっのしいですよー!
スカッとするワザを習得しよう。

| 時間 | 場所 | 対象 |
|---------|------------------|---------|
| 午後1時~4時 | 小川原町文化福祉センター大ホール | レディス・親子 |

母と子のバドミントン教室のメンバーがバックアップする
レディス・親子・ジュニアの練習です。

11/13
日

吹奏楽を楽しもう

高井学大生漢学研究所所員

千葉 圭哉

チューバ奏者の千葉先生による
吹奏楽クリニック。

| 時間 | 場所 | 対象 |
|------------------|------------------|---------|
| 午前9時30分~お昼12時30分 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 中・高生と一般 |

※50センチくらいの定規とえんぴつ、工作用ハサミ、カラーテープ、
色紙ハシヤーを持ってきてね。

11/13
日

草履の風と涼しくも
身近な材料で
タコづくり

高井学大生漢学研究所所員

野崎 嘉男

小学生なら一人でつくれるカンタンなタコづくり。
親子でつくるタコづくり。
だれのが一番高くあがるかな。

| 時間 | 場所 | 対象 |
|----------|------------------|----|
| 午前10時~正午 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 親子 |

※50センチくらいの定規とえんぴつ、工作用ハサミ、カラーテープ、
色紙ハシヤーを持ってきてね。

11/19
土

美しい景色と空気に
輝く歌声を求めて

高井学大生漢学研究所所員

岡元 真理子

みなさん!
ボイスクリニックって知ってますか?
自分の身体を大切にしよう。

| 時間 | 場所 | 対象 |
|----------|------------------|---------|
| 午前10時~正午 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 小学生~中学生 |
| 午後1時~4時 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 一般 |

※50センチくらいの定規とえんぴつ、工作用ハサミ、カラーテープ、
色紙ハシヤーを持ってきてね。

11/19
土

石巻市は
こんな街だといいわ

高井学大生漢学研究所所員

中出 佳操

小川原町の中を歩きながら
石巻の街を
健康なマツを歩いてみましょう!

| 時間 | 場所 | 対象 |
|-----------------|------------------|-----|
| 午後1時30分~夕方4時30分 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 高校生 |

※50センチくらいの定規とえんぴつ、工作用ハサミ、カラーテープ、
色紙ハシヤーを持ってきてね。

11/20
日

マネジメントゲームが
楽しい!

高井学大生漢学研究所所員

香澤 隆

参加者一人ひとりが活躍!
決められた資源をもとに経営をシミュレーション。
出資したコミュニケーションが楽しいゲームです。

| 時間 | 場所 | 対象 |
|-----------------|------------------|-------|
| 午後1時30分~午後3時30分 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 高校生以上 |

※50センチくらいの定規とえんぴつ、工作用ハサミ、カラーテープ、
色紙ハシヤーを持ってきてね。

11/26
土

これからの
幼稚園と保育所の
一元化を考える

高井学大生漢学研究所所員

菊地 達夫

末岡 一伯

北海道で進んでいる幼稚園と保育所の一元化。
そのメリットやデメリットは?
皆で話し合いましょう。

| 時間 | 場所 | 対象 |
|-----------|------------------|----|
| 午後2時~夕方4時 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 一般 |

※50センチくらいの定規とえんぴつ、工作用ハサミ、カラーテープ、
色紙ハシヤーを持ってきてね。

11/26
土

宮沢賢治や有馬武郎の作品で
朗読劇のできるまで

高井学大生漢学研究所所員

森 一生

声を出して小紙や原稿を読んでみましょう。
その中の「セリフ」を中心に音楽や効果音
を入れて読み上げると……
新しい世界が見えてきますよ。

| 時間 | 場所 | 対象 |
|----------|------------------|-------|
| 11/26(土) | 小川原町文化福祉センター大ホール | 小学生以上 |
| 11/27(日) | 小川原町文化福祉センター大ホール | 小学生以上 |

※50センチくらいの定規とえんぴつ、工作用ハサミ、カラーテープ、
色紙ハシヤーを持ってきてね。

12/11
日

フリーターやニートって
なんだろう?

高井学大生漢学研究所所員

佐々木 邦子

フリーターやニート……
就職や転職や企業の経営者は
どのように思っているの?

| 時間 | 場所 | 対象 |
|-----------------|------------------|----|
| 午後1時30分~午後3時30分 | 小川原町文化福祉センター大ホール | 一般 |

※50センチくらいの定規とえんぴつ、工作用ハサミ、カラーテープ、
色紙ハシヤーを持ってきてね。